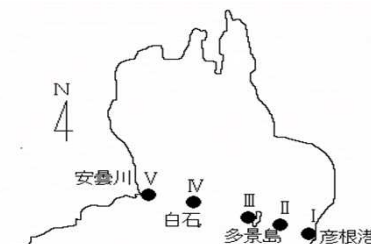


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和6年1月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和6年1月17日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

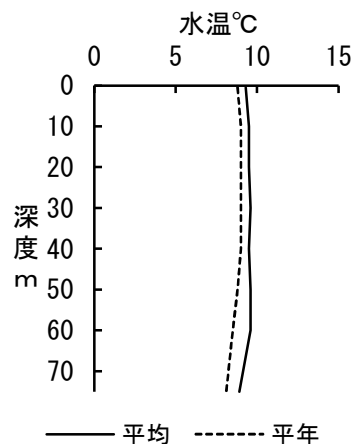
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2014年～2023年(平成26年～令和5年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 1月平均値 8.0m 平年値 7.5m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	1月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	9.3	8.8	+0.5
10	9.5	9.0	+0.5
20	9.5	9.0	+0.5
30	9.6	9.0	+0.6
40	9.5	9.0	+0.5
50	9.6	8.8	+0.8
60	9.6	8.5	+1.1
75	8.9	8.1	+0.8



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
12月下旬	10.1	9.5	+0.6
1月上旬	9.3	8.3	+1.0
1月中旬	8.8	7.8	+1.0

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	1月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	4.6	4.9	-0.3
10~20	3.7	2.0	+1.7
20~40	2.1	1.7	+0.4
40~75	1.9	1.1	+0.8

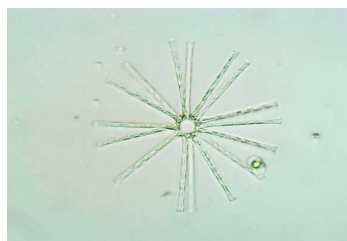
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

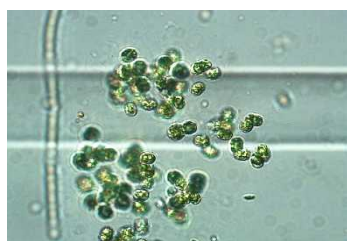
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、全ての地点で*Asterionella formosa*(ホシガタケイソウ:珪藻)と*Cosmocladium constrictum*(コスモクラヂウム:緑藻)が細胞数で多く認められた。

動物プランクトンについては、地点1では*Kellicottia longispina*(トゲナガワムシ:ワムシ類)が、地点2、5では*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が、地点3、4では*Daphnia galeata*(カブトミジンコ:枝角類)がそれぞれ個体数で最も多く認められた。



Asterionella formosa



Cosmocladium constrictum



Kellicottia longispina



ノープリウス期幼生



Daphnia galeata

6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。ただし平年値(参考値)はウインクラ法による測定値。

深度 (m)	1月平均値		平年値(参考値)		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.2	89.0	10.5	94.6	-0.3	(-5.6)
10	9.9	86.6	10.3	93.2	-0.4	(-6.6)
20	10.1	88.3	10.1	91.7	0.0	(-3.4)
30	10.1	88.6	10.1	91.2	0.0	(-2.6)
75	6.1	53.0	6.9	60.3	-0.8	(-7.3)